

東日本大震災被災地

女川町へ職員を派遣しています



上下水道局では平成23年8月から東日本大震災の被災地を支援するため、宮城県女川町へ職員を派遣しています。今回は、平成31年4月から令和2年3月まで派遣された水道技術課の石橋技師のコメントを紹介します。

平成31年4月から令和2年3月までの1年間、私は女川町建設課水道係に配属されました。この部署は私を含め4人で業務を行っており、その中で私は日常の維持管理業務や災害復旧に関する事務手続きなど幅広い業務をさせていただきました。見知らぬ土地で慣れない業務をするにあたり、現地職員の懇切丁寧な指導やこの派遣のを知る町民の方々の温かい声援は大変励みになりました。

着任した時は海と山に囲まれた女川町の景色に感動を覚えました。しかしそれだけでなく、住宅や公共施設を高台に造るなどの対策を知り、二度と震災に負けない町をめざすという強い気持ちの表れも感じました。

震災から9年が経ち、被災した場所は現在ではきれいに整地されて広大な商業施設ができました。町内外の人を出迎える場所のひとつとして設けられた「シーパルピア女川」では秋刀魚や金華サバ、うに、カキなどの女川の味を堪能できる飲食店やアクセサリーの制作販売などさまざまな店舗が立ち並んでいます。私もよく食べに行きました。

ほかにも女川駅と併設されている「女川温泉ゆぼっぼ」や市場「ハマテラス」もあります。さらには今年の3月には大型スーパーが開店し、休日はいつもたくさんの人が集まれるほどに復興が進んできました。また今年度は小学校や消防署も建築予定であり、町はますますにぎわっていきましょう。

私が派遣された時期には、震災で中止されていた行事やイベントも徐々に復活してきました。夏は女川町獅子振り披露会、秋は秋刀魚収穫祭、冬は花火大会が行われました。震災の教訓を忘れないようにしながらも、人々が互いに楽しみ活気づけ合おうとする町全体の情熱が感じられました。

1年間の派遣を通して、復興事業に携わりながら毎日変わっていく様子を実感できたこと、女川町の人と関わりを持てたことはとても貴重な経験になりました。これからも女川町の復興と発展を願い、別の形で支援を続けていこうと思っています。そして今回の派遣で得た経験や知識を活かして川西市に貢献していこうと思います。

